

石柱道標

中山道の分岐点

1892年に賤母新道が開通するまでは、中山道が馬籠、妻籠と三留野を繋ぐ幹線道路となっていました。ここ橋場には分岐点があり、この地域は重要な交差点として繁栄しました。1881年6月に近江、飯田、そして地元の商人の一団が建てた、極めて大きい石柱は当時のこの地方の繁栄を物語っています。

この石柱には道路の名称と主要都市への距離が刻まれています。「中仙道 西京五十四里半 東京七十八里半」(一里は4km弱ですので、中仙道経由で東京まで約308km、京都まで214km)と刻まれています。この石柱のもうひとつの面には、「飯田道 元善光寺旧跡江八里半 長姫石橋中央江八里半 (元善光寺旧跡まで31.5km、長姫石橋中央まで33.5km)」と刻まれています。

現代の橋の横にある江戸時代の橋の石積みをじっくりとご覧ください。